

女子大生の「着まわし」における実態調査

和田みなみ・山口 奈美・増田 智恵

**Investigation of “mixing and matching of garments”
by female university students.**

Minami WADA, Nami YAMAGUCHI and Tomoe MASUDA

Abstract

In this paper, we examine “mixing and matching of garments” (MAMOG) from the point view of the relationship between Eco and Clothes environment by means of a questionnaire survey of female university students (20.62 years average age, n=107). MAMOG was identified as to leading to “Eco” from environmental and economic perspectives using a basic statistical analysis method.

Furthermore, two component factors were investigated - B22. Total merit and B23. Eco characteristic of reduction of disposal and purchase of clothing merit from MAMOG by means of multiple regression analysis. B22 was composed of eleven factors (R=0.73), and B23 was the main component factor. Next were component factors C4. Confidence in my ability to dress well and management of E2. seasonal change of clothing. B23, in turn, was found to be composed of seven factors (R=0.86) which lead to the economic “Eco” way of thinking which then drives purchase of merchandise for use in the long term, along with common factor C4 of B22, and other component factors.

In order to create high merit and contribute to creation of “Eco” by means of MAMOG it is necessary that consumers have strong C4. Confidence in my ability to dress well and management of E2. clothing life of seasonal change of clothing and related factors. In order to realize these factors, support to gain fundamental information about and knowledge of MAMOG is essential.

1. 緒言

近年、社会的に「エコ」という言葉をよく耳にするが、環境保護を目指すこの時代に、衣生活の面からも個々を活かし合理的なライフスタイルを設計するための情報と能力を身につけることは必須と考える。大半の生活者が完成した既製服を“商品”として利用しているなかで、購入から着用して廃棄するまでの個々の衣生活スタイルは様々であろう。エコを含んだファッション情報も多々提供され、衣料素材からのエコ対策と廃棄衣料の利用拡大によるエコ対策などが徐々に実行されている。いわゆる、3Rや5R(後述参照)で定義されているなかの「リデュース」である。ただし、実際にエコ環境整備に賛成であっても、個々の生活者にそれを実現するための情報や知識が十分に提供されてはいえず、当然ながら生活者自身も身につけているとはいえない。

本研究では、個々の生活者にとって最も容易なエコ

環境への参加姿勢として、衣服購入時の意識と行動ができる衣生活情報の充実を構想した。“無駄な服の購入を防ぎ、利用価値のある良質の服を効率よく着回して楽しむファッション衣生活”である。十分な衣服情報をもとに自分の考えで衣服を選ぶことができれば、大切に着回して管理し、廃棄についても考慮した対応ができるであろうという、社会的にも個々にもやさしい基本的な衣生活スタイルの実現である。

ここでは衣服情報を「より利用価値の高い品を手に入れることができる衣服知識」と位置付ける。すなわち衣服購入時にその衣服のデザインや素材、管理・廃棄方法、他の衣服との組み合わせなどを総合的に判断できる知識である。我々生活者が、これらの知識を実際に活用できれば、まず衣服購入時に利用価値の少ない且つ管理の難しい、生活者自身にやさしくない不要な服を選択することはなく、最終的にはエコにつながると位置づける。衣服の有効活用は、「エコ」という視点から最終的には5Rの中のリデュースにもつな

がり、個々の衣生活者が実現出来る社会的エコ対策の意識と行動である。

「エコ」については、中学校技術・家庭科 家庭分野¹⁾の中でも3Rや5Rについて表記されている。一般的に3Rとして、不必要なモノは買わない(リデュース)、使えるものは捨てないで繰り返し使う(リユース)、資源に再生して利用する(リサイクル)とあげられており、リフューズ(断る)やリペア(修理)を加え5Rと述べられている。衣服の3Rとしては、環境に配慮した衣生活で、リサイクルやリフォーム(リメイク)やリユースが取り上げられるにとどまっている。本研究で提案した購入時に必要な衣服の有効活用情報、すなわち個別に学習した衣服のデザインから管理などを総合的に考えて、有効活用するための、ある意味、選択判別知識までのまとめはないように思う。この購入時の知識が認識されれば、不要になった衣服のリサイクルやリメイクも適切で有効な処理ができるのではないだろうか。衣服の構成や縫製を含む設計などを素材と関連して総合的に習得していない学校教育の中で、衣服からのリサイクルやリメイクは実際にはやや難しい教材と考える。

そこで、実生活で男女を問わず成人になれば必須となる「有効活用性の高い衣服選択情報と知識」を衣生活教育のなかでも取りあげることは有効と考え提案した。衣服購入を抑制(リデュース)するのではなく、「利用価値のあるもの」のひとつとして、ここでは近年ファッション雑誌などの情報として多々取りあげられている「着まわし」に焦点を当て、生活者の容易に活用しやすい情報としてその実態を調査した。

着まわしの関連論文の国内での報告²⁾⁻⁴⁾では、同じデザインの服を使用し、日本の成人女子、若年女子、男性及び韓国の成人女子に評価を行った結果、イメージの同じデザインの服と、様々なイメージを持つ服(様々な評価をもつ服)があるという報告をしている。様々なイメージを持つ服は「イメージが固定しない服」などとして論文では述べられている。そのなかで「着まわし」までの検討はされていない。「着まわしが可能である」「着まわしが有効なデザイン」など、「着まわし」を主体とした服の評価結果のデザインイメージ、形、色などの観点からまとめられた論文は見当たらないように思える。

本研究では、生活者が「着まわし」をする目的と、どのような「着まわし」の効果を求めているのかを調査し、衣服の購入、管理、衣生活環境の整備のための情報を得ることを試みる。「着まわし」についての情報を提供しているのが、雑誌や販売側、企業の一方的な着まわし情報の提供にとどまっている。今回はファッション情報のひとつとしてそれを良く利用していると

考えられる女子大生に焦点を当て、「着まわし」情報の利用法や実際に「着まわし」がされているのかなどについての実態調査を行い、「着まわし」に関する基礎的知見を得ることを目的とする。

2. 調査方法

(1) 調査対象者および調査期間

調査対象者は三重大学・広島大学の18歳~23歳の女子大学生107名(平均年齢20.62歳、SD=1.15歳)である。調査期間は、2011年12月末から2012年1月末までの約1か月間である。

(2) 調査内容

Table 1に示す実態調査を行った。調査項目は、A. 基本属性14項目、B. 「着まわし」に対する意識と行動の実態27項目、C. ファッション感19項目、D. 性格10項目、E. 衣生活管理意識10項目、F. 購買・廃棄意識10項目を設定した。D. 性格10項目については、岡本浩一氏⁹⁾の研究を基に、宮下氏¹⁰⁾がデザイン使用していた質問項目の一部をもとに作成した。

(3) 方法

アンケート調査法は留置式調査により行った。

A1は記述式、A2~A9-2、B13は選択式で、B(B13以外)~Fの各項目は、1. 全くそうではない-2. あまりそうではない-3. どちらとも言えない-4. ややそうである-5. 非常にそうである の5段階評価を用いた。

(4) 分析方法

分析はエクセルおよびエクセル統計ソフトを用いた。まず基本的な平均値及び標準偏差(SD)を求め、スピアマンの単純相関分析による各項目間の関係を検討した。これらの結果より重回帰分析で「着まわし」を構成する要因を抽出した。

3. 結果および考察

(1) A. 基本属性について

A1. 出身地、A2. 年齢、A4-1. 姉妹の有無、A5. 通学時間、A6. 通学方法、A7. 居住形態、A8. 1か月間で衣服に費やすことができる金額、A9-1、A9-2. 制服の有無について、回答結果をTable 2に示す。

調査対象者は先述したように、A2. 平均年齢20.62歳(SD=1.15歳)である。A1. 出身地は、三重県(37%)、愛知県(23%)、広島県(10%)が7割を占めた。調査場所を三重大学と広島大学とした結果、調査対象

女子大生の「着まわし」における実態調査

Table 1 実態調査項目

A 基本属性	A1	出身地	A7	居住形態
	A2	年齢	A8	1か月で衣服に費やすことが可能な金額
	A3	職業（学生も含む）	A9-1	制服の有無／中学
	A4-1	兄弟／姉妹の有無	A9-2	制服の有無／高校
	A4-2	子どもの有無	A10	雑誌・新聞の購読時間
	A5	通学時間	A11	テレビの視聴時間
B 「着まわし」の意識と行動	A6	通学方法	A12	インターネット利用時間
	B1	①「着まわし」の重視度	組み合わせを変えて異なる感じに見せる「着まわし」	
	B2		どのような場所にも着ていくことができる「着まわし」	
	B3		どのような人に会うときにでも着ることができる「着まわし」	
	B4		姉妹間や親子間で衣服を交換して着る「着まわし」	
	B5	②「着まわし」の意識と行動	衣服購入時に「着まわし」を意識していますか	
	B6		手持ちの衣服間で、どの程度「着まわし」をしていますか	
	B7	③「着まわし」をする理由	「着まわし」によるおしゃれを楽しみたい	
	B8		組み合わせを考えることが好き	
	B9		自分の持っている衣服でのいろいろな組み合わせ方ができる	
	B10		組み合わせ可能な衣服を沢山所持している	
	B11		手持ちの衣服を有効活用したい	
	B12		1着の同じ衣服をいろいろなイメージに見せたい	
	B13	④「着まわし」について最も利用する情報源	1. 雑誌、テレビ、インターネットなどのメディア 2. 店頭でのディスプレイ 3. 店員、家族、友人からのアドバイス 4. 利用しない 5. その他	
	B14	⑤「着まわし」の学習状況	「着まわし」に関連した衣生活について、小中高の授業で学習しましたか	
	B15		学習したことは「着まわし」に役立ったと思いますか	
	B16		衣服の「着まわし」について、小中高で扱う必要がありますか	
	B17		衣服に関する基礎情報がわかりますか [形・種類]	
	B18	⑥「着まわし」に関する基礎情報	衣服に関する基礎情報がわかりますか [色の種類]	
	B19		衣服に関する基礎情報がわかりますか [柄の種類]	
	B20		衣服に関する基礎情報がわかりますか [小物の種類]	
	B21		「着まわし」しやすい衣服がわかりますか	
	B22		「着まわし」をすることに価値があると思いますか	
	B23	⑦「着まわし」の効果	「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減りエコロジーにつながると思いますか	
	B24		「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減り経済的節約につながると思いますか	
	B25		「着まわし」をすることで印象を変えることができますと思いますか	
	B26		「着まわし」は得意ですか	
B27	「着まわし」がしにくく、着ていない衣服がありますか			
C ファッション感	C1	ファッションセンスに自信がある	C11	衣服の値段を把握している
	C2	バーゲンによく行く	C12	家にいるときもおしゃれを楽しんでいる
	C3	流行を取り入れている	C13	新しい着こなしやコーディネートを工夫している
	C4	自分の着こなしに自信がある	C14	同じイメージの衣服でコーディネートをしている
	C5	ウインドショッピングが好きだ	C15	低価格ブランドのお店を利用する
	C6	自分のイメージに合った服装を心がけている	C16	小物を取り入れてコーディネートをしている
	C7	最低限どれだけの衣服があればよいかわかっている	C17	形が個性的な服を着用している
	C8	自分をどのように見せたいかがわかっている	C18	有彩色の衣服を着用している
	C9	TPOに応じて衣服の組み合わせをえることができる	C19	柄物の衣服を着用している
	C10	他者のファッションに興味がある		
D 性格	D1	引っ込み思案である	D6	他人が自分に反対するといやな気持ちになる
	D2	自分に対する他人の評価が気になる	D7	人に見られていると格好をつけてしまう
	D3	型にはまったことをするより変わったことをしたい	D8	いつでも積極的に自分の意見を述べる
	D4	自分と他人を比較してしまう	D9	他の人に自分のことを認めてもらいたい
	D5	我を通したい	D10	自分の容姿を気にする
E 衣生活管理意識	E1	衣服は自分で洗濯している	E6	着なくなった衣服はリメイクしている
	E2	季節が変わったら衣服の衣替えを行っている	E7	着なくなった衣服はリサイクルに出している
	E3	衣服は自分で購入している	E8	ボタンをつける、ほつれを直す等の補修管理をしている
	E4	衣服の取り扱い表示タグを活用している	E9	アイロンをかけて形を整えている
	E5	自分が持っている衣服を把握している	E10	自宅で洗濯できない衣服は、クリーニングに出している
F 購買・廃棄意識	F1	リサイクルショップなどを利用している	F6	いらなくなったものは、まず誰かにあげることを考える
	F2	捨てるときに罪悪感がある	F7	何をかうか計画して買い物をする
	F3	廃棄物の正しい分別がわかっている	F8	予算内で低価格の品物を沢山買う
	F4	過度な包装は断っている	F9	無駄なお金は使わないようにしている
	F5	エコバッグを使っている	F10	長い期間利用できる品物を購入している

者の大半は西日本出身となった。

A4-1. 家族構成の姉妹の有無については、Table 2 に示すように1人でも姉か妹がいれば「あり」と判断してまとめた。その結果、半数以上に姉妹がおり、衣服情報を同性と交換できる環境にいる割合が把握できた。なお、学生対象の調査のためA4-2の子どもの有無では、子どもがいるとの回答はなかった。

A5. 通学時間は6割以上が1時間以下であるが、3割以上は1時間以上かけて登校していた。また、A6. 通学方法を見ると、自転車と公共交通機関が多くを占めている。A7. 居住形態は自宅と下宿の割合がほぼ同じであった。

A8. 1か月に衣服に費やすことができる金額は、約7割が1万円未満で、5000円以上1万円以下の割合が一番大きかった。

制服の有無について、中学生時代(A9-1)は9割以上の学生が制服を着用しており、高校生時代(A9-2)には約8割が制服だったという回答に対して、2

割弱の学生が私服であった。制服の割合が高いことから、着用する服を自分で選択するという経験が少なかったことがうかがえる。なお、高校生時代のほうに制服が無いと答えた人が増加したのは、三重県津市内は私服校が存在するためと考える。

なお、一日の情報源(Table 3)として、A10では7割弱の人は雑誌もしくは新聞を読んでいるが、約3割の人はまったく何も読んでいない。また、A11. テレビの視聴時間は、1~3時間が最も多く大半の人がテレビを視聴していた。次にA12. インターネットの利用時間は、30分未満~2時間未満が大半を占めていた。テレビほど利用はされていない。3つの情報源を比較すると、テレビは長時間視聴されており、ニュース番組やバラエティ、ドラマ、CMから動きあるファッションも衣服に関する情報源として得られていることが予測される。

Table 1のB13について、最も利用する情報源の割合をFig. 1に示す。上述の雑誌・テレビ・インターネット

Table 2 A. 基本属性について (n=107人)

A1 出身地		A4-1 姉妹の有無	
三重	40	あり	59
愛知	25	なし	48
広島	4	A5 通学時間	
愛媛	11	15分未満	48
岐阜	3	15分~30分	9
和歌山	1	30分~1時間	13
香川	2	1~2時間	28
大阪	1	2時間以上	8
長崎	1	未回答	1
山口	2	A6 通学方法	
福岡	1	徒歩	6
岡山	2	自転車	47
石川	2	車	11
兵庫	1	公共交通機関	42
高知	1	原付	1
徳島	1	A7 居住形態	
静岡	5	自宅	52
島根	1	下宿	55
滋賀	1	A8 衣服に費やせる金額	
千葉	2	5000円未満	31
		5000円以上	43
A2 年齢		10000円以上	25
18歳	3	20000円以上	7
19歳	12	50000円以上	1
20歳	42	A9-1 中学時代制服	
21歳	18	あり	98
22歳	30	なし	3
23歳	2	未回答	6
means	20.62歳	A9-2 高校時代制服	
SD	1.15歳	あり	84
		なし	17
		未回答	6

Table 3 一日の情報源 (n=107人)

A10 雑誌・新聞購読時間	
0分	37
15分未満	50
15分~30分未満	16
30分~1時間未満	3
1時間以上	1
A11 テレビ視聴時間	
0分	3
1時間未満	21
1~2時間未満	53
2~3時間未満	18
3時間以上	12
A12 インターネット利用時間	
0分	3
30分未満	28
30分~1時間未満	35
1~2時間未満	28
2時間以上	13

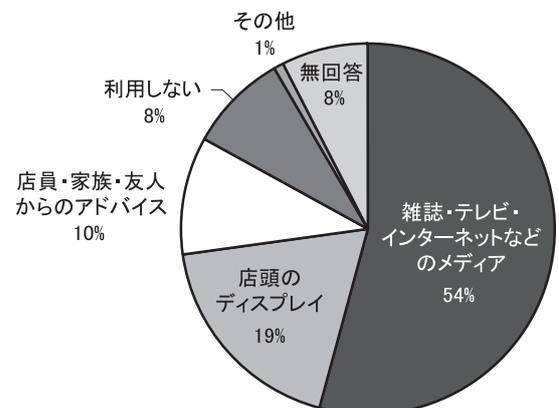


Fig. 1 「着まわし」の情報源

トなどのメディアが54%と非常に多い。次いで店頭
のディスプレイが19%、店員・家族・知人のアドバ
イスが10%で、「利用しない」と答えた人は8%であ
った。人との関わりで得られる情報ではなく、雑誌やイ
ンターネット、テレビなどのメディアや店頭ディス
プレイにおいて理想的なモデルとして提案されている
情報が7割以上を占めている。

(2) B.「着まわし」に対する重視度、および意識と行 動について

1) 「着まわし」の①重視度 (B1~B4、Table 4)

「着まわし」の重視度 B1~B4 に関して平均値を
比較すると、B1が3.88と最も大きく4に近い値であ
った。次に平均値の大きいのはB3(3.63)、B2(3.48)
で、B4(2.50)が離れて最も低い値を示す。B1と
B2~B4は危険率5%、もしくは1%で有意な差が認
められる。今回の調査会対象者は、「着まわし」をB1
の異なる感じに見せることを最も重視しており、次い
でB2、B3の場所や人に対応して変化をすることのよ
うである。B4の姉妹や親子間で衣服を交換して着る
ということ「着まわし」として捉えている人は少ない
ことがはっきりとわかる。ただし、B4のSDが
B1~B3のSDよりやや大きいため、人によるバラつ
きがあることが捉えられる。

Table 4 「着まわし」の①重視度の平均値と標準偏差

①「着まわし」の重視度	means	SD
B1 組み合わせを変えて異なる感じに見せる「着まわし」	3.88	0.97
B2 どのような場所にも着ていくことができる「着まわし」	3.48	0.96
B3 どのような人に会うときにも着ることができる「着まわし」	3.63	0.90
B4 姉妹間や親子間で衣服を交換して着る「着まわし」	2.50	1.38

2) 「着まわし」の②意識・行動 (B5~B6、Table 5)

「着まわし」は異なる感じに見せることが最も重視
されていたが、「着まわし」の実際の意識と行動とし
ては、衣服購入時 (B5) の平均値が4.16とやや高い
評価を示し、衣服購入後 (B6) の平均値は3.90にと
どまる。両項目間には危険率1%の有意差が認められ
たことから、購入時の方が「着まわし」を強く意識し
ている場合が多い。

3) 「着まわし」をする③理由 (B7~B12、Table 5) と⑦効果 (B22~B27、Table 5)

③「着まわし」をする理由について平均値を比較す
ると、B11(4.5)が最も高い評価を得ていた。次にB
12、B7が4に近い大きな値であったが、B11との間
には有意差が認められる ($p < 0.01$)。その他の項目も
B10以外は平均値が3.5~4.5であり、着まわしをす
る理由として認められていた。しかし、B10は平均値
からも明らかなように“組み合わせ可能な衣服の所持

が多いこと”が「着まわし」をしている理由とはいえ
ないことが認められる。B10はB7~B12の全ての項
目との間に有意差があった ($p < 0.01$)。

「着まわし」をする理由は、B10で示されたように
組み合わせ可能な衣服を沢山所持しているのではなく、
むしろ多くないために自分が持っている衣服の中で有
効活用し、同じ服を様々なイメージにみせたいという
意図や、おしゃれを楽しみたい、また組み合わせが好
きということが把握できた。

⑦「着まわし」の効果に関して平均値を比較すると、
B22~B25は4.2~4.41の高い評価であり、「着まわし」
はB22~B25まで多くの効果(エコロジー、経済的節
約、印象変化など)が認められる。しかし、B26の平
均値が2.7で「着まわし」がやや得意ではない結果か
ら、B27の「着まわし」がしにくく、着ていない衣服
があるかの平均値が4に近く3.9の評価になっている
ことが理解される。

4) 「着まわし」の⑤学習状況 (B14~B16、Table 5) と「着まわし」の⑥基礎情報 (B14~B21、Table 5)

「着まわし」が得意でないという原因を、小中高の
授業で「着まわし」の学習状況から検討した。学習状
況について平均値をみると、B14(1.85)、B15(1.74)
いずれも2に満たない非常に低い評価になっている。
小中高の授業において、衣生活での「着まわし」は学
習しておらず、そのためB16が3.15という平均値
であり、「着まわし」を授業で取り扱うかの是非につ
いても、「どちらともいえない」という評価になった
ものと推察する。

「着まわし」をするために必要な衣服に関する基礎
情報については、B17~B20は平均値が3.9~4.2の高
い評価となった。衣服の形や種類(Aラインワンピース、
UネックのTシャツなど)、色(寒色、暖色、同
色系など)、柄(ボーダー、チェックなど)、小物(ス
トール、アクセサリ、鞆、靴など)の種類について、
自己評価としてはほぼ把握していると判断していた。
しかし、実際にB21「着まわし」しやすい服がわか
るかについては平均値3.16の“どちらともいえない”
の評価にとどまる。B21はB17~B20と有意差が認め
られたことから ($p < 0.01$)、衣服の形や色、柄など個
別での認識はあるが、トータルで衣服として見たとき
の「着まわし」しやすい衣服を考えられる情報と知識
までを把握しているとは言えないようである。

(3) C. ファッション感について (C1~C19)

大学生のファッション感についての平均値、標準偏
差をTable 6に示す。平均値が3.5以上の項目には、
「ウインドウショッピングが好き」や自分のイメージ
に合った服装を心がけており、他者のファッションや

Table 5 「着まわし」の②～⑥意識と行動の平均値と標準偏差

②「着まわし」の意識と行動		means	SD
B5	衣服購入時に「着まわし」を意識していますか	4.16	0.96
B6	手持ちの衣服間で、どの程度「着まわし」をしていますか	3.90	0.83
③「着まわし」をする理由			
B7	「着まわし」によるおしゃれを楽しみたい	3.93	0.98
B8	組み合わせを考えることが好き	3.50	1.07
B9	自分の持っている衣服でのいろいろな組み合わせができる	3.59	0.94
B10	組み合わせ可能な衣服を沢山所持している	3.13	0.81
B11	手持ちの衣服を有効活用したい	4.50	0.71
B12	1着の同じ衣服をいろいろなイメージに見せたい	3.95	0.95
④「着まわし」の学習状況			
B14	「着まわし」に関連した衣生活について、小中高の授業で学習しましたか	1.85	0.93
B15	学習したことは「着まわし」に役立ったと思いますか	1.74	0.83
B16	衣服の「着まわし」について、小中高で扱う必要がありますか	3.15	0.82
⑤「着まわし」の基礎情報			
B17	衣服に関する基礎情報がわかりますか [形・種類]	3.97	0.85
B18	衣服に関する基礎情報がわかりますか [色の種類]	4.17	0.85
B19	衣服に関する基礎情報がわかりますか [柄の種類]	4.21	0.77
B20	衣服に関する基礎情報がわかりますか [小物の種類]	4.01	0.90
B21	「着まわし」しやすい衣服がわかりますか	3.26	0.99
⑥「着まわし」の効果			
B22	「着まわし」をすることに価値があると思いますか	4.41	0.58
B23	「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減りエコロジーにつながると思いますか	4.28	0.77
B24	「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減り経済的節約につながると思いますか	4.20	0.88
B25	「着まわし」をすることで印象を変えることができますか	4.39	0.67
B26	「着まわし」は得意ですか	2.70	0.90
B27	「着まわし」がしにくく、着ていない衣服がありますか	3.90	0.70

Table 6 ファッション感の平均値と標準偏差

C. ファッション感		means	SD
C1	ファッションセンスに自信がある	2.39	0.76
C2	パーゲンによく行く	3.25	1.13
C3	流行を取り入れている	2.95	0.96
C4	自分の着こなしに自信がある	2.38	0.86
C5	ウインドウショッピングが好きだ	4.04	0.97
C6	自分のイメージにあった服装を心がけている	3.85	0.83
C7	どれだけの衣服があればよいかわかっている	3.07	0.92
C8	自分をどのように見せたいかわかっている	3.26	0.96
C9	TPOに応じて組み合わせを変えることができる	3.58	0.79
C10	他者のファッションに興味がある	4.06	0.98
C11	衣服の値段を把握している	3.76	0.88
C12	家にいるときもおしゃれを楽しんでいる	2.09	0.99
C13	新しい着こなしやコーディネートを工夫している	3.10	0.97
C14	同じイメージの衣服でコーディネートをしている	3.40	0.90
C15	低価格ブランドのお店を利用する	3.80	0.88
C16	小物を取り入れてコーディネートをしている	2.89	1.16
C17	形が個性的な服を着用している	2.33	1.05
C18	有彩色の衣服を着用している	3.45	0.96
C19	柄物の衣服を着用している	3.38	0.93

TPO の意識をしていることが伺える。着用する衣服には低価格ブランド店の利用もあり、個性的な形や柄物も衣服はあまり選択せず、無難な衣服を選択していることも伺える。

一方、C1～C4、C7、C8、C12～C14、C16～C19は2.09～3.45の高い値を示していない。とくにファッションセンス (C1) や自分の着こなしに自信がある (C4) という問いに対しては、平均値が2.4に満たない。ファッションに対して自信がなく、流行もあまり取り入れられていないことが平均値からわかる。また、C12の平均値が2.09と非常に低い評価であり、家にいるときまではおしゃれを楽しむということはないようだ。

(4) D. 性格について (D1～D10)

性格についての平均値、標準偏差を Table 7 に示す。平均値を比較すると、最も平均値が高かったのは D10. 自分の容姿を気にする (4.07) で、次の D2. 自分に対する他人の評価が気になる (3.99) との間に有意差はない。その他、D4. 自分と他人を比較してしまうと D9. 他の人に自分のことを認めてもらいたい の他者と自分を比較した内容の項目の平均値が4に近い値を示した。「他者」という存在を強く意識していることがわかる。

D. 性格の項目を全体的に見ると、「引っ込み思案である」や「我を通したい」「積極的に自分の意見を述べる」などといった自己を主張する項目においては平

均値が高い値が示されにくく、「他者の評価が気になる」や「他の人に認めてもらいたい」など、他者からの評価に関する項目においては平均値が高い結果となっている。

(5) E. 衣生活管理意識について (E1~E10)

衣生活管理について平均値と標準偏差を Table 8 に示す。平均値が最も高かったのは、当然であるが E3. 衣服は自分で購入している で、E1~E10 のすべての項目と有意差が認められた ($p < 0.01$)。次に、E2、E5、E8、E10 が 3.69~3.95 と近似したやや高い平均値を示し、各項目間に有意差はなかった。E2、E5、E8、E10 からは、季節ごとに衣替えを行っているため、自分の持っている衣服について把握しており、ボタンつけやほつれ直しなどの補修管理、また必要があればクリーニングに出しているということが伺える。

しかし、使用しなくなった衣服の活用方法の E6、E7 は共に低い評価であり、リメイクやリサイクルまでは至っていないことが伺える。とくにリメイクに関しては実行している人がほとんどいないと思われる平均値 1.73 の結果であった。

(6) F. 購買・廃棄意識について (F1~F10)

衣服を含めすべてのモノに対する購買・廃棄意識についての平均値と標準偏差を Table 9 に示す。F1 が最も低く 2.46 という平均値であり、次いで F6 が 2.76 と低い。F6. いらなくなったものはまず誰かにあげるといふ考えがあまりないため、自分や他者のモノを売買する F1 のリサイクルショップの利用が少ない。購入後の廃棄方法はあまり実行されていないようである。ただし、廃棄行動について平均値が 3.64~3.93 のやや高かった項目で考察すると、F2 の「捨てるときに罪悪感がある」ため、F10 の長い期間利用できる品物を購入して、F9 の無駄なお金は使わないようにしていることが把握できる。したがって、平均値が約 3.5 で高くはないが、F5 のエコバッグを使っており、F7 の何を買うか計画して買い物をすることなど、購買・廃棄意識を衣服購入時に考慮して実行するように努力していることが伺える。

B5 での「着まわし」を考えるのは衣服購入時が多かったが、ここでも購入行動をするときにはいろいろと配慮して判断するが、購入後の処理については十分な対応が難しい実情が明らかになった。

はじめにも述べたが 1 着の服を選択するとき、廃棄方法などまで含めた「着まわし」を判断できる衣生活情報と知識が教育や販売側などから提供され、生活者自身も身につけることが、最終的に衣生活エコ環境を導くことに繋がるのが本調査でも示唆された。

Table 7 性格の平均値と標準偏差

D. 性格	means	SD
D1 引っ込み思案である	3.06	1.20
D2 自分に対する他人の評価が気になる	3.99	1.02
D3 型にはまったことをするよりかわったことをしたい	3.10	0.99
D4 自分と他人を比較してしまう	3.87	0.97
D5 我を通したい	2.93	0.93
D6 他人が自分に反対するといやな気持ちになる	3.20	0.97
D7 人に見られていると格好をつけてしまう	3.33	1.02
D8 いつでも積極的に自分の意見を述べる	2.68	1.03
D9 他の人に自分のことを認めてもらいたい	3.82	0.79
D10 自分の容姿を気にする	4.07	0.67

Table 8 衣生活管理意識の平均値と標準偏差

E. 衣生活管理意識	means	SD
E1 衣服は自分で洗濯している	3.26	1.72
E2 季節が変わったら衣服の衣替えを行っている	3.94	1.02
E3 衣服は自分で購入している	4.47	0.87
E4 衣服の取り扱い表示タグを活用している	3.37	1.23
E5 自分が持っている衣服を把握している	3.95	0.79
E6 着なくなった衣服はリメイクしている	1.73	0.97
E7 着なくなった衣服はリサイクルに出している	2.70	1.47
E8 ボタンをつける、ほつれを直す等の補修管理をしている	3.74	1.09
E9 アイロンをかけて形を整えている	2.97	1.25
E10 自宅で洗濯できない衣服は、クリーニングに出している	3.69	1.18

Table 9 購買・廃棄意識の平均値と標準偏差

F. 購買・廃棄意識	means	SD
F1 リサイクルショップなどを利用している	2.46	1.38
F2 捨てる時に罪悪感がある	3.64	1.19
F3 廃棄物の正しい分別がわかっている	3.03	0.91
F4 過度な包装は断っている	2.92	1.14
F5 エコバッグを使っている	3.55	1.18
F6 いらなくなったものは、まず誰かにあげてことを考える	2.76	1.19
F7 何を買うか計画して買い物をすることなど	3.54	1.13
F8 予算内では低価格の品物を沢山買う	3.26	1.09
F9 無駄なお金は使わないようにしている	3.73	0.90
F10 長い期間利用できる品物を購入している	3.93	0.77

(7) 「着まわし」と各項目との関係

1) ①「着まわし」の重視度 (B1~B4) と②意識・行動 (B5、B6)、③理由 (B7~B12) との関係について

Table 10 に「着まわし」の重視度と意識・行動、理由の関係を単相関で検討し、平均値順に並び替えた。その結果、3つの「着まわし」の項目 (B1~B3) に関しては、購入時の着まわし意識と相関がみられた。衣服購入時には、組み合わせを変えて異なる感じにみせること、場所・人などに対応した「着まわし」が重視されている。

とくに平均値で「着まわし」として最も重視されていた B1 は意識と行動、理由の B5~B12 すべてに相関

Table 10 「着まわし」①重視度と②意識・行動、③理由との単相関

重視度		意識・行動、理由		B5	B6	B11	B12	B7	B9	B8	B10
		means		衣服購入時に「着まわし」を意識していますか	手持ちの衣服間で、「着まわし」をしていますか	手持ちの衣服を有効活用したい	1着の同じ衣服をいろいろなイメージに見せたい	「着まわし」によるおしゃれを楽しみたい	自分の持っている衣服でいろいろな組み合わせができる	組み合わせを考えたいが好き	組み合わせ可能な衣服を沢山所持している
		means		4.16	3.90	4.50	3.95	3.93	3.59	3.50	3.13
B1	組み合わせを変えて異なる感じに見せる「着まわし」	3.88	0.284	0.381	0.255	0.550	0.419	0.266	0.370	0.332	
B3	どのような場所にも着ていくことができる「着まわし」	3.63	0.277	0.200	0.057	0.102	0.259	0.375	0.308	0.365	
B2	どのような人に会うときにも着ることができる「着まわし」	3.48	0.255	0.145	-0.004	0.056	0.079	0.136	0.206	0.210	
B4	姉妹間や親子間で衣服を交換して着る「着まわし」	2.50	0.024	-0.004	0.022	0.105	0.070	0.052	-0.014	0.160	

■ : $p < 0.01$; ■ : $p < 0.05$

Table 11 「着まわし」③理由とファッション感の単相関

ファッション感		理 由		B11	B12	B7	B9	B8	B10
		means		手持ちの衣服を有効活用したい	1着の同じ衣服をいろいろなイメージに見せたい	「着まわし」によるおしゃれを楽しみたい	自分の持っている衣服でいろいろな組み合わせができる	組み合わせを考えたいが好き	組み合わせ可能な衣服を沢山所持している
		means		4.50	3.95	3.93	3.59	3.50	3.13
C10	他者のファッションに興味がある	4.06	0.287	0.237	0.448	0.240	0.379	0.228	
C5	ウインドウショッピングが好きだ	4.04	0.303	0.187	0.400	0.337	0.373	0.484	
C6	自分のイメージに合った服装を心がけている	3.85	0.047	-0.021	0.206	0.173	0.128	0.210	
C15	低価格ブランドのお店を利用する	3.80	0.157	0.057	0.201	0.197	0.116	0.049	
C11	衣服の値段を把握している	3.76	0.135	-0.082	0.143	0.095	0.313	0.071	
C9	TPOに応じて衣服の組み合わせを変えることができる	3.58	0.005	-0.052	0.105	0.095	0.344	0.233	
C18	有彩色の衣服を着用している	3.45	0.114	-0.018	0.156	0.184	0.080	0.165	
C14	同じイメージの衣服でコーディネートをしている	3.40	-0.054	-0.108	0.114	0.032	0.113	0.024	
C19	柄物の衣服を着用している	3.38	0.082	-0.098	0.125	0.182	0.079	0.095	
C8	自分をどのように見せたいかがわかっている	3.26	0.085	0.024	0.101	0.140	0.246	0.196	
C2	バーゲンによく行く	3.25	0.161	0.170	0.145	0.116	0.112	0.168	
C13	新しい着こなしやコーディネートを工夫している	3.10	0.173	0.159	0.336	0.408	0.441	0.305	
C7	最低限どれだけの衣服があればよいかわかっている	3.07	0.001	-0.105	0.038	0.167	0.279	0.176	
C3	流行を取り入れている	2.95	0.063	0.039	0.218	0.220	0.181	0.323	
C16	小物を取り入れてコーディネートをしている	2.89	-0.001	-0.048	0.217	0.294	0.221	0.236	
C1	ファッションセンスに自信がある	2.39	0.109	0.209	0.306	0.385	0.497	0.525	
C4	自分の着こなしに自信がある	2.38	0.057	0.161	0.201	0.277	0.340	0.491	
C17	形が個性的な服を着用している	2.33	0.110	0.072	0.070	0.051	0.162	0.159	
C12	家にいるときもおしゃれを楽しんでいる	2.09	-0.067	-0.188	0.183	0.276	0.215	0.267	

■ : $p < 0.01$; ■ : $p < 0.05$

がみられた。組み合わせを考えながら様々なコーディネートを楽しみながら着まわすことで、異なる感じにみせ、かつ人と会うことも意識しながらおしゃれを楽しんでいる。平均値が次に高かった B3 も、B11 と B12 の相関はなかったもののそれ以外は同様のことがいえる。また、B1 では B12 の「1着の衣服をいろいろなイメージに見せたい」と高い相関を示した ($r=0.550$)。異なる感じにみせるということは1着の衣服をいろいろなイメージにみせたり、手持ちの衣服を有効活用するということが関係しているが、「着まわし」の意識として場所や人などを対象とした「着まわし」は B11 や B12 との相関がない。平均値において「着

まわし」として重視しない項目である B4 の人と交換して着る「着まわし」は、どの項目とも相関がなかった。

2) 「着まわし」をする③理由 (B7~B12) とファッション感 (C1~C19) との関係について

「着まわし」をする理由がファッション感の関係について単相関で検討し、平均値順に Table 11 に示す。B. 「着まわし」の理由とすべての項目で相関がみられたのは、他者のファッションに興味がある (C10) であった ($r=0.228 \sim r=0.448$)。B12 を除く項目とウインドウショッピングが好きだ (C5) との間にも相関がみられた ($r=0.303 \sim r=0.484$) ことから、「着まわ

女子大生の「着まわし」における実態調査

し」でおしゃれを楽しむ人 (B7) は、他者のファッションに興味がある (C10) やウインドウショッピングが好きだ (C5) というファッションについて追及しているようだ。他者から作りだされたファッションを参考にしながら (C10) 手持ちの衣服内でいろいろな組み合わせ方法ができるため (B9)、組み合わせ可能な衣服の所持 (B10) にもつながる。

また、B. 「着まわし」の理由と C. ファッション感の項目で平均値が共に低い項目間での相関がみられた。とくに、B の中でも低い平均値であった組み合わせ可能な衣服を沢山所持している (B10) と C. ファッション感のファッションセンスに自信がある (C1) とはやや高い相関があり ($r=0.525$)、逆に推察すると、組み合わせ可能な衣服を沢山所持していないというのはファッションセンスに自信がないことにつながるとも解釈できた。

着まわしの理由として有彩色の衣服の着用 (C18)、柄物の衣服の着用 (C19)、形が個性的な衣服の着用

(C17) などと相関がなかったため、衣服の色柄形と「着まわし」をする理由とは単純に把握はできなかった。

自他ともにファッションに興味を持ち、おしゃれを楽しむことで手持ち衣服の有効活用だけでなく、衣服の組み合わせや着こなしに自信を持ち、組み合わせ可能衣服の所持枚数も増えるという、「着まわし」の理由とファッション感が関係してくることが示唆された。

3) ⑤学習状況の関係について (B14~B16, Table 12)

小中高における「着まわし」の学習状況について、本研究において3項目ともに平均値が低かったが、「着まわし」に関連した衣生活についての学習状況 (B14) と学習したことが「着まわし」に役立ったと思いますか (B15) との間にやや高い相関がみられた ($r=0.672$)。また、役立ち度と授業要望 (B16) の間にも低い相関がみられたことにより、逆に推察すると、「着まわし」に関連した衣生活についての学習をすることが、後の衣服の「着まわし」の役立ち度に反映し授業要望が望まれるという関係があるようだ。

4) 「着まわし」の②意識・行動 (B5, B6)・⑦効果 (B22~B27) と購買・廃棄意識 (F1~F10) の関係について

すべてのモノの購買・廃棄意識と「着まわし」の効果や意識がどのような関係を持っているのかについて、単相関で検討した結果を Table 13 に示す。衣服購入時に「着まわし」を意識する (B5) と購買意識の F7~F10 には確かに相関 ($r=0.292\sim r=0.355$) がみられた。衣服購入時に「着まわし」を考えることは、計画的にモノを買うということにもつながり (F7)、そのことで無駄な買い物をなくそう (F9) とする意識

Table 12 「着まわし」の⑤学習状況の単相関

		B15	B16
		学習したことは「着まわし」に役立ったと思いますか	衣服の「着まわし」について、小中高で扱う必要がありますか
B14	「着まわし」に関連した衣生活について、小中高の授業で学習しましたか	0.672	0.104
B15	学習したことは「着まわし」に役立ったと思いますか		0.197

■: $p < 0.01$; ■: $p < 0.05$

Table 13 「着まわし」②意識・行動、⑦効果と購買・廃棄意識との単相関

		意識・行動、効果								
		B5	B6	B22	B25	B23	B24	B27	B26	
購買・廃棄意識		衣服購入時に「着まわし」を意識していますか	手持ちの衣服間で、どの程度「着まわし」をしていますか	「着まわし」をするときに価値があると思いますか	「着まわし」をするので印象を変えたいと思いますか	「着まわし」をするので廃棄・購入する衣服が減りエコロジーにつながるとは思いますか	「着まわし」をするので廃棄・購入する衣服が減り経済的節約につながるとは思いますか	「着まわし」がしにくく、着ていない衣服がありますか	「着まわし」は得意ですか	
		means	4.16	3.90	4.41	4.39	4.28	4.20	3.90	2.70
F10	長い期間利用できる品物を購入している	3.93	0.333	0.195	0.145	0.179	0.428	0.297	0.022	0.121
F9	無駄なお金は使わないようにしている	3.73	0.335	0.202	0.180	0.116	0.233	0.306	0.030	0.155
F2	捨てる時に罪悪感がある	3.64	0.149	-0.019	-0.040	0.063	0.061	0.068	0.000	-0.015
F5	エコバッグを使っている	3.55	0.161	0.193	-0.007	0.115	0.126	0.137	0.053	0.189
F7	何を買うか計画して買い物をする	3.54	0.355	0.130	0.031	0.140	0.105	0.072	-0.012	0.226
F8	予算内で低価格の品物を沢山買う	3.26	0.292	0.185	0.185	-0.026	0.080	0.083	0.085	0.090
F3	廃棄物の正しい分別がわかっている	3.03	0.081	0.016	-0.040	-0.049	0.164	0.146	-0.159	-0.001
F4	過度な包装は断っている	2.92	0.201	0.149	0.095	0.105	0.262	0.241	0.036	0.030
F6	いらなくなったものは、まず誰かにあげることを考える	2.76	0.156	-0.025	-0.039	0.163	0.143	0.124	0.013	-0.016
F1	リサイクルショップなどを利用している	2.46	0.087	0.058	-0.013	-0.013	0.090	-0.020	-0.195	0.103

■: $p < 0.01$; ■: $p < 0.05$

も出てくることが予想される。

また、「着まわし」の効果と購買・廃棄意識の関係については、「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減りエコロジーにつながる (B23) と経済的節約につながる (B24) の項目は、購買意識の F4、F9、F10 と相関 ($r=0.233 \sim r=0.428$) がみられた。「着まわし」を環境・経済の両面から「エコ」だと答えた人は、日常生活の購入場面において、過度な包装を断ったり (F4)、長期間使用できるモノを選択し (F10)、無駄使いをしないように心掛けているようだ。B22 と B25 は購買・廃棄意識との相関はなく、衣服の「着まわし」価値や印象変化と購買・廃棄意識には関係は認められなかった。

5) 「着まわし」に価値があるか (B22) ・得意か (B26) と各項目との関係について

「着まわし」をすることに価値があるか (B22) は平均値 4.41 の高い評価が認められたが、実際の「着まわし」が得意か (B26) の平均値は 2.70 と高い評価ではなく、むしろ得意ではない傾向であった。そこで、両者それぞれと単相関のあった項目 ($p < 0.01$ 、 $p < 0.05$) を Table 14、Table 15 に示して、その要因を検討した。

Table 14 で「着まわし」の価値 (B22) と低いのが相関のあったのは B23、次いで B24 であり、「着まわし」は廃棄・購入する衣服が減り、環境的にも経済的にもエコであるということが認められた。衣生活管理意識の項目では E2. 季節が変わったら衣服の衣替えを行っている、性格の項目では、D 10. 自分の容姿を気にする、D 4. 自分と他人を比較してしまうと「着まわし」の価値に相関がややある。

次に Table 15 の「着まわし」が得意か (B26) は、B10 とやや高い相関を示した ($r=0.516$)。当然のことだが、B10. 組み合わせ可能な衣服を沢山持っており、B9. 自分が持っている衣服でいろいろな組み合わせができ ($r=0.498$)、結果的に C4. 自分の着こなしに自信があり ($r=0.486$)、「着まわし」も得意であるという、納得いく結果が認められる。したがって、Table 15 のなかでファッション感 (C1、C3~C5、C7~C13、C15~C17) を意識しながら、同時に廃棄・購入する衣服が減り環境的 (B23) ・経済的 (B24) に「エコ」につながるように考えて行動している傾向が単相関係数からもやや認められた ($r=0.193 \sim r=0.501$)。

(8) 「着まわし」を構成する要因について

1) 「着まわし」の価値 (B22) の構成要因

「着まわし」に価値があるということは平均値や他項目での相関で認められて、いくつかの項目、すなわち要因が組み合わされて構成されていることが推察された。そこで、「着まわし」の価値の構成要因について検討するために、「着まわし」をすることに価値があると思いますか (B22) を目的変数、着まわしの意識と行動、ファッション感、性格、衣生活管理意識、購買・廃棄意識などの B5~F10 を説明変数として重回帰分析を行った。

その結果、変数選択により説明変数として有意な 11 項目が選定され、Table 16 に標準偏回帰係数順で示す。標準偏回帰係は予測値である目的変数と説明変数との関係を示し、AIC は赤池の情報量基準を意味する。重相関係数は 0.730、AIC は -172.024 であっ

Table 14 B22. 「着まわし」の価値と各項目との単相関

B22. 「着まわし」をすることに価値があると思いますか		
B23	「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減りエコロジーにつながるとと思いますか	0.391
B24	「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減り経済的節約につながるとと思いますか	0.373
C10	他者のファッションに興味がある	0.340
E2	季節が変わったら衣服の衣替えを行っている	0.310
C15	低価格ブランドのお店を利用する	0.305
B5	衣服購入時に「着まわし」を意識していますか	0.286
B19	衣服に関する基礎情報がわかりますか [柄の種類]	0.271
B6	手持ちの衣服間で、どの程度「着まわし」をしていますか	0.263
B18	衣服に関する基礎情報がわかりますか [色の種類]	0.259
B11	手持ちの衣服を有効活用したい	0.257
D10	自分の容姿を気にする	0.248
B7	「着まわし」によるおしゃれを楽しみたい	0.237
C11	衣服の値段を把握している	0.234
A10	雑誌・新聞の購読時間	0.234
D4	自分と他人を比較してしまう	0.229

■ : $p < 0.01$; ■ : $p < 0.05$

女子大生の「着まわし」における実態調査

Table 15 B26.「着まわし」が得意かと各項目との単相関

B 26.「着まわし」は得意ですか		
B10	組み合わせ可能な衣服を沢山所持している	0.516
C1	ファッションセンスに自信がある	0.501
B9	自分の持っている衣服でのいろいろな組み合わせ方ができる	0.498
C4	自分の着こなしに自信がある	0.486
B8	組み合わせを考えることが好き	0.462
C3	流行を取り入れている	0.454
C16	小物を取り入れてコーディネートをしている	0.445
B6	手持ちの衣服間で、どの程度「着まわし」をしていますか	0.409
B21	「着まわし」しやすい衣服がわかりますか	0.394
E6	着なくなった衣服はリメイクしている	0.382
C13	新しい着こなしやコーディネートを工夫している	0.358
C10	他者のファッションに興味がある	0.339
B7	「着まわし」によるおしゃれを楽しみたい	0.338
B23	「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減りエコロジーにつながると感じますか	0.337
C17	形が個性的な服を着用している	0.332
C7	最低限どれだけの衣服があればよいかわかっている	0.323
C8	自分をどのように見せたいかがわかっている	0.296
B24	「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減り経済的節約につながると感じますか	0.287
C5	ウインドウショッピングが好きだ	0.282
C12	家にいるときもおしゃれを楽しんでいる	0.265
C9	TPOに応じて衣服の組み合わせを変えることができる	0.259
D4	自分と他人を比較してしまう	0.256
E8	ボタンをつける、ほつれを直す等の補修管理をしている	0.235
F7	何を買うか計画して買い物をする	0.226
B19	衣服に関する基礎情報がわかりますか [柄の種類]	0.210
C15	低価格ブランドのお店を利用する	0.209
E3	衣服は自分で購入している	0.203
B5	衣服購入時に「着まわし」を意識していますか	0.196
C11	衣服の値段を把握している	0.193
D10	自分の容姿を気にする	0.191

■ : $p < 0.01$; ■ : $p < 0.05$

Table 16 目的変数“B22.着まわしの価値”の要因との重回帰分析

説明変数	偏回帰係数	標準偏回帰係数	判定
B23	「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減りエコロジーにつながると感じますか	0.318	0.423 **
C4	自分の着こなしに自信がある	0.196	0.289 **
E2	季節が変わったら衣服の衣替えを行っている	0.161	0.281 **
D3	型にはまったことをするよりかわったことをしたい	0.143	0.242 **
C10	他者のファッションに興味がある	0.128	0.216 **
B6	手持ちの衣服間で、どの程度「着まわし」をしていますか	0.139	0.198 *
C15	低価格ブランドのお店を利用する	0.120	0.182 *
F3	廃棄物の正しい分別がわかっている	-0.130	-0.201 *
C16	小物を取り入れてコーディネートをしている	-0.103	-0.206 *
E7	着なくなった衣服はリサイクルに出している	-0.094	-0.237 **
B10	組み合わせ可能な衣服を沢山所持している	-0.199	-0.276 **
定数項		1.568	
重相関係数		0.730	
AIC		-172.025	

** : $p < 0.01$; * : $p < 0.05$

Table 17 目的変数“B23.「着まわし」がエコロジーにつながるか”の要因との重回帰分析

説明変数	偏回帰係数	標準偏回帰係数	判定
B24 「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減り経済的節約につながると思いますか	0.678	0.761	**
F10 長い期間利用できる品物を購入している	0.228	0.228	**
B17 衣服に関する基礎情報がわかりますか [形・種類]	0.201	0.218	**
C4 自分の着こなしに自信がある	0.178	0.201	**
F1 リサイクルショップなどを利用している	0.066	0.119	*
E8 ボタンをつける、ほつれを直す等の補修管理をしている	-0.088	-0.126	*
B20 衣服に関する基礎情報がわかりますか [小物の種類]	-0.223	-0.261	**
定数項	0.365		
重相関係数	0.857		
AIC	-181.556		

** : $p < 0.01$; * : $p < 0.05$

た。重相関係数が非常に高い値までは求められなかったが、標準偏回帰係数が11項目の中で最も高い値を示したのはB23.「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減りエコロジーにつながると思うかであった。「着まわし」の価値として危険率1%で有意な説明変数と認められた。「着まわし」に価値があるかに対して11項目中4項目(C4、C10、C15、C16)がC.ファッション感を説明変数として認められたが、その他にも正の値で有意なE2.季節が変わったら衣替えを行っている(E.衣生活管理意識)やD3.型にはまったことをするよりかわったことをしたい(D.性格)など様々な構成要因が認められた。

2) 「着まわし」がエコロジーにつながるか (B23) の構成要因

ここでは直接「着まわし」がエコロジーへの影響する構成要因を抽出するため、「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減りエコロジーにつながると思いますか (B23) を目的変数、B5~C19、E1~F10を説明変数として重回帰分析を行い、変数選択により説明変数として有意な7項目が選定された (Table 17)。

重相関係数は0.857、AICは-181.556を示し、やや関係の高い構成要因が抽出された。B24.「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減り経済的節約につながる と F10. 長い間利用できる品物を購入している は正の値で有意であり、B24 は標準偏回帰係数が0.761と高い影響が示されている。長期間利用できる品物の購入も「着まわし」による環境面でのエコに影響があることが認められた。また、B22の構成要因でもあったC4.自分の着こなしに自信がある も影響が認められた。「着まわし」をすることで廃棄・購入する衣服が減り、エコロジーにつながるばかりではなく、自分の着こなしへの自信にもつながり、経済的エコや、長期間利用できるモノの購入の促進にもつながるといふ結果が得られた。

4. 総括

現代に生きる私たち生活者は、衣服に様々な条件を求めて購入している。本研究では、生活者の着装満足だけでなく、経済的節約、廃棄削減につながると思われる「着まわし」に着目した。環境保護を目指すこの時代に、個々を活かし合理的な衣生活を設計するための情報と能力を身につけることも必要と考えた。しかし、「着まわし」についての実態を調べ学術的にその構成を明らかにしている研究などは殆ど見当たらない。

本調査では生活者が「着まわし」をする目的と、どのような「着まわし」の効果を求めているのかを調査し、衣服の購入・管理・衣生活環境の整備のための情報を得たいと考えた。おしゃれやファッションに興味があり、自分の責任で衣生活を意識し始めているであろう女子大学生107名を調査の対象者とした。

実態調査として項目A~Fを検討した結果、平均値による単純集計では多くの人が衣服購入時に「着まわし」を意識し、自分が持っている衣服の中で「着まわし」をしながらおしゃれを楽しんでいることが明らかとなった。女子大学生はおしゃれに興味があり、衣服の形や色、柄の種類などは把握しているが、どのような服が「着まわしのしやすい衣服」なのかを把握する知識は乏しいことが実状として認識できた。「着まわし」は環境的価値、経済的価値、また印象を変えることができるという多くの価値も認められた。また、手持ちの衣服の有効活用願望や、一着の衣服を様々なイメージにみせたいという願望はあるが、「着まわし」をすることは難しく、死蔵衣服となってしまう場合が多くあるようである。

また、各調査項目の関係を単相関で検討した結果、「組み合わせをかえて異なる感じに見せる着まわし」を重視している人は、「着まわし」の意識と行動、お

よび「着まわし」の理由（B5～B12）との間に有意な相関がみられた。B.「着まわし」をする理由とC.ファッション感の関係では、ファッションセンスの自信が高まるほど、組み合わせ可能な衣服の所持枚数も増えることが関係づけられた。組み合わせ可能な衣服を所持することで「着まわし」パターンも増え、自信がつきファッションを楽しむようになることが示唆された。ただし、実際に着まわしに自信があり対応する衣服の所持数が高い人は平均値自体は低く、実態として「着まわし力」が高い人は少ないことも把握された。

「着まわし力」を身につける学習状況を平均値だけでみると、実情として教育的に学習されていない。そのため、「着まわし」の学習の役立ち度は低く授業要望も少なかったが、学習状況が高まれば役立ち度も増える傾向が相関関係から推測された。また、「エコ」の面では、普段の生活において無駄なお金を使わないようにしたり、長期間使用できるものの選択、過度な包装の拒否など環境面でも経済面でも「エコ」に心がけている人は、「着まわし」の効果として環境面でも経済面でも「エコ」を意識していることが把握された。

「着まわし」は上記にあげられるような価値は認められたが、実際に「着まわし」が得意ではない人が多いことも平均値から明らかになった。実際に「着まわし」が得意かと各項目との単相関結果から、得意な人は衣服の補修管理を行い、さらに衣服のリメイクまで及んでいる傾向が認められた。「着まわし」を充実した結果として、自分の衣服に愛着を持って着こなすために、補修管理はもちろん最後まで活かして使おうというリメイクまでのやさしい気持ちが精神的にも生まれるためと推察される。“自分に且つ社会的にやさしいファッション”に興味をもつことが、「着まわし」を得意にするための提案としたい。

次に、B22.「着まわし」の価値とB23.「着まわし」は廃棄・購入する衣服が減りエコロジーにつながるための構成要因について重回帰分析を用いて検討した。B22は11項目の構成要因（ $R=0.73$ ）が抽出され、

B23が最も有意な構成要因であり、次にC4.自分の着こなしに自信がある、E2.衣替えなどの衣生活管理などの項目が関係していた。また、B23は7項目から構成され（ $R=0.86$ ）、経済面でのエコロジーにもつながり、長期間利用できるモノを購入する考え方、さらにB22の構成要因でもあったC4などの項目が関係していた。

女子大生の「着まわし力」として「着まわし」の価値を高め、エコロジーにつなげるために、自分の着こなしに自信を持ち、衣替えなどの衣生活管理もできることが必要であり、実現のためには「着まわし」のための基礎情報と知識を習得できるサポートが望まれる。

引用文献

- 1) 鶴田敦子ほか著. “技術・家庭（家庭分野）”. 開隆堂、p.171, p.233 (2012)
- 2) T. Masuda, *Jpn. Res. Assn. Text. EnDUses.*, 53, pp.553–566 (2012)
- 3) T. Masuda, K. Murakami, and S. Kim, *Jpn. Res. Assn. Text. EnDUses.* 52, pp.298–310 (2011)
- 4) T. Masuda, K. Murakami, Y. HiraBayashi, and M. Nagano, *Jpn. Res. Assn. Text. EnDUses.*, 50, pp.154–164 (2009)
- 5) T. Masuda, K. Murakami, Y. HiraBayashi, and M. Nagano, *Jpn. Res. Assn. Text. EnDUses.* 50, pp.165–174 (2009)
- 6) T. Masuda, T. Yao, K. Murakami and D. Goto, *Jpn. Res. Assn. Text. EnDUses.*, 47, pp.212–220 (2006).
- 7) T. Masuda, T. Yao, K. Murakami and D. Goto, *Jpn. Res. Assn. Text. EnDUses.*, 47, pp.221–230 (2006).
- 8) T. Masuda, A. Mori, and A. Murata, *Jpn. Res. Assn. Text. EnDUses.*, 46, pp.585–602 (2005).
- 9) 岡本浩一. 独自性欲求の個人差測定に関する基礎的研究. *教育心理学研究* 56, pp.160–166 (1985)
- 10) 宮下一博. 大学生の独自性欲求の類型化に関する研究. *教育心理学研究* 39, pp.214–218 (1991)